



園だより

第5号

平成30年9月3日
駿河台大学第一幼稚園
園長 田所 恒子

夏の経験を二学期に

真夏日・猛暑日が続き、暑さが厳しい夏でしたが、ようやく朝夕には虫の音も聞かれるようになりました。本日より二学期が始まります。夏季保育で、日に焼け、ぐっと背が伸び大きくなった子どもたちの姿を目にし、ご家庭で楽しく素敵な夏季休業日を過ごされたことが想像でき大変うれしく思いました。夏の経験を生かしながら二学期も充実した教育となるよう努めてまいります。ご理解・ご協力の程よろしくお願いたします。

年長児はこの夏、二泊三日の箱根合宿に出掛けました。サファリパークや水族館、遊覧船、スイカ割りや花火大会、ゲーム、大きなお風呂……と楽しいことをいっぱい経験しました。しかし、保護者と離れての合宿は、「頑張らなくてはならないこと」を体験する場でもあります。担任は「この友達となら合宿中、安定できる、頑張れる」とメンバーを考えに考えて5~6人のグループを作成しました。教員が一人ずつ付き班行動をとりますが、荷物の整理や身支度等、身の回りのことは自分でなくてはなりません。特に保護者と離れての就寝は、「がんばる力」がとても必要です。布団に入りながら「お母さんに会いたいね」「うん、会いたいね」「二つ泊ったら会えるよね」そんな会話が聞こえ、そしていつの間にか寝息が聞こえてきました。離れたからこそ保護者の方に愛されていることをより感じ「頑張れた」のでしょう。子どもたちの自立には、仲間がいること、そして何より自分が愛されているという安定感・安心感が重要だと改めて感じます。箱根合宿で自信をつけ一回り大きく成長した年長児は、二学期には友達と共に様々なことに挑戦し、さらに成長していくことでしょう。

年少児は、栽培してきた枝豆を夏季保育中に収穫し、食べました。先生や友達と枝豆を抜き、枝から鞘をちぎり、初めての収穫を体験しました。枝豆の鞘の毛に触れたり、においを嗅いだり様々な感覚で枝豆の収穫を楽しみました。みんなで食べる枝豆はとても美味しくもっと食べたいという声も聞かれました。枝豆の苦手な子どももいましたが、自分の嫌いな物を美味しく食べる友達の姿を見ることも食育には大切なことです。二学期以降、植物や食べ物への関心、そして友達への関心が高まっていくことでしょう。

年中児は、枝豆を収穫する年少児の活動を見ていましたが、“副産物”を発見しました。枝豆を抜いた時に土の中から出てきた甲虫の幼虫です。虫が大好きな年中児は「これカブトムシの幼虫かな?」「違うと思う。だって(保育室で飼っている)カブトより小さいじゃん。クワガタじゃない?」「触ってみる?」(ちょっと恐そうです)「やめとこ。だってしっぽのどこ、黒いじゃない、毒があるかもしれないもの」……。自分の思いを言葉にし、さらにその理由も表せます。友達の考えや意見を聞くことができます。興味や関心のあることに対して、こんなに力を発揮できるようになっています。友達と一緒に楽しい二学期を経験することでしょう。

全学年の方々に、夏季休業中の楽しかったことを『夏の思い出』に記入して提出していただきます。発達に合わせて夏休みに楽しかったことを先生に、友達に、学級全体に言葉で伝えていくための手立てとします。ご理解いただき、ご提出をお願いいたします。

まだまだ、残暑が厳しい日が続くと思いますが、子どもたちの健康に留意しながら、この夏の経験をいかし、さらに充実した二学期となるよう教職員一同努めてまいります。どうぞよろしくお願いたします



シーツや布団たたみも友達と協力して行います。



駿河台学園セミナーハウス。朝、ラジオ体操をしました。



みんなで枝豆を収穫しました



幼虫を囲み話題が広がります。



「先生あのね。〇〇に行ったの」「誰と行ったの?」と年少組は『夏の思い出』をもとに先生との会話を広げます。年中・長組は友達に経験を伝えていきます。